

2025年10月12日(日)
中国新聞SELECT掲載



アフリカの東南部に位置する、世界最貧国の一つ、マラウイ。かつて赴任したここに私の第二のふるさとがある。国際協力機構（JICA）海外協力隊員として配属されたカタベイで自宅から勤務先の聴覚支援学校まで10キロの道のりを通り、青々とした山々と天高い空を日本の風景と重ね合わせていた。

わが家は、現地の人と同じ集落の中にあり、電気や水は通じていたものの停電や断水は日常茶飯事だった。電気がなければ炭火でご飯を作り、水がなければ井戸水を浴びる生活。近く

JICA
だより



マラウイ

角田直也さん(38)

総社市在住

隣人と食事を楽しむ筆者（右から2人目）



探究心培う豊かな時間

の市場ではトマトと玉ねぎ、ジャガイモが手に入つた。内陸国だが湖が近くにあつたため、魚を食べるこ

かもしだれないと「住めば

とができた。他の隊員たちか

た。日本と比べれば不便な暮らし

敗と改善を繰り返す中で、

だしを取るために庭先で一晩火にかけていた鍋がなくなり、かまぼこがボロボロと形崩れしたりするなど

失敗の連続だった。だが失

つたことがある。ところが、日本では何でも買うことができる。さらに忙しい日々の暮らしで答えを急ぐ傾向があり、探究の時間を得ないまま、インターネット検索などで簡単に答えを

知ることができる。学びの原動力である「知りたい」

「やつてみたい」がかなえ

にくい環境になってしまった

つてているのではないだろう

か。日本の子どもたちには

ぜひ「やりたい」を原動力

にたくさん失敗し、たくさん

学んでほしいと願つてい